

2020年1月21日



一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

2019年12月 マンスリー レポート

集計企業数 **55** 社

①売上高・前年同月比

	全店			既存店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	68,340,958 万円	100.0%	100.4% (101.0%)	64,817,426 万円	99.0% (99.5%)
食 料 品	58,164,002 万円	85.1% (85.1%)	101.1% (101.7%)	55,438,286 万円	99.6% (100.2%)
農 産	8,302,586 万円	12.1% (12.4%)	102.4% (100.8%)	7,985,125 万円	100.9% (99.3%)
水 産	6,138,799 万円	9.0% (7.8%)	101.0% (102.2%)	5,905,095 万円	99.4% (100.6%)
畜 産	7,472,115 万円	10.9% (11.4%)	101.0% (102.9%)	7,179,980 万円	99.4% (101.2%)
惣 菜	6,973,340 万円	10.2% (10.2%)	102.9% (103.8%)	6,674,420 万円	101.1% (102.0%)
日配食品	12,528,534 万円	18.3% (19.1%)	101.4% (102.4%)	11,516,171 万円	99.9% (100.9%)
加工食品	16,748,628 万円	24.5% (24.2%)	99.5% (100.0%)	16,177,495 万円	98.5% (98.9%)
生活関連	4,207,462 万円	6.2% (6.0%)	97.8% (96.6%)	4,043,789 万円	95.5% (94.1%)
衣 料 品	1,767,010 万円	2.6% (3.0%)	91.9% (94.9%)	1,665,763 万円	91.6% (94.1%)
そ の 他	4,202,483 万円	6.1% (6.0%)	97.9% (99.8%)	3,669,588 万円	96.3% (96.7%)

② 数 値

全店総売上高	68,340,958 万円	店舗数	4,887 店舗
総売場面積	9,771,265.8 m ²	総従業員数	261,314 人

店舗平均月商	13,984.2 万円	平均客単価 (前年同月比)	2,097.5円 (99.5%)
月間m ² 売上(前月)	7.0 万円 (5.8万円)	平均店舗面積	1,999.4 m ²
月間坪売上(前月)	23.1 万円 (19.2万円)	パート比率(前月)	77.5% (77.4%)

注) 総従業員数・・・パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 12月の天候について、気温は全国的にかなり高かった。冬型の気圧配置が続かなかったため、東日本太平洋側と西日本の日照時間はかなり少なく、日本海側の降雪量は記録的に少なかった
- ・ 生鮮の相場状況について、青果物では野菜が前年に比べやや高く推移した。水産物の市場への入荷量は横ばい、卸売価格はやや相場安であった。畜産物の相場は、前年に比べ豚肉が高く、和牛や鶏肉は低下した。
- ・ 前年同月と比較して、火曜日が1回多く土曜日が1回少ない曜日廻りで、23日の平成の天皇誕生日が平日に変わったこともあり、土日祝日の休日日数では2日少なかった

《 商品動向 》

○農産

- ・ 野菜は、気温が高かったためサラダ関連が好調であった。一方で鍋物食材の動きが悪かった
- ・ 前年の相場安からの反動で、「白菜」や「大根」、「キャベツ」など大型野菜は、概ね好調であった
- ・ 果物は、主力の「みかん」が不振を極めた。前年好調からの反動や相場低下による単価減の要因もあった
- ・ その他の果物では、「りんご」や「柿」、「ぶどう」が好調に販売できている。一方で品薄であった「いちご」は好不調が分かれる結果となった

○水産

- ・ 刺身類が、「盛り合わせ」や「マグロ」を中心に好調であった
- ・ 「ぶり」は、販売強化の成果により売上を伸ばした企業が多かったほか、「エビ」や「カニ」が概ね好調であった
- ・ 一方で、「タラ」や「牡蠣」などの鍋物商材は気温環境により不調となったほか、生魚が引き続き苦戦している

○畜産

- ・ 牛肉は、比較的好調であった。その中では、和牛の売上を伸ばした企業が多かった
- ・ 気温高による鍋材料の需要減の影響などもあり、豚肉と鶏肉は好不調が分かれる結果となった
- ・ 加工肉は、全般的に好調であった

○惣菜

- ・ 全般的に好調に推移した。新商品やリニューアル品の取り組みが成果をあげている
- ・ クリスマス商戦は、チキン関連（ロースト・フライド）の動きが良かったほか、年末商戦の「天ぷら」も好調とするコメントが多かった

○日配・加工食品

- ・ 和日配は、前年不振だった「麺類」が、やや持ち直したものの、気温環境により「豆腐」や「練り製品」などの鍋物材料の動きが悪かった
- ・ 「牛乳」や「ヨーグルト」が売上を伸ばしたほか、「パン」や「冷凍食品」が好調だったとのコメントが多かった
- ・ 加工食品では、気温環境により「飲料」が好調だった。一方で、「調味料」や「乾物（農産・水産）」の動きが悪かった
- ・ 前年のテレビ報道による特需があった「納豆」や「魚缶詰」、「食油」などは、反動による売上の減少がみられた
- ・ 酒類は、売上回復の兆候がみられなかった。増税前の買いだめ需要の反動が残っているとのコメントもあった

○「クリスマス」の状況について

- ・ クリスマスは、イブ・当日が平日の曜日廻りと23日の祝日が無くなった影響もあり、売上は全体的に伸び悩んだ
- ・ 平日のクリスマスだったため、「ケーキ（予約・手作り）」が不調だったほか、「寿司」や「オードブル」などのパーティーメニュー関連も動きが悪かった
- ・ 一方で、惣菜のチキン商材（ロースト・フライド）は概ね好調であった。
- ・ 子どもを対象とした菓子（ブーツや玩具・キャラクター菓子）や「シャンメリー」などの販売は縮小傾向が続いている

○「歳末商戦・年末マーケット」について

- ・ 歳末商戦の売上は、地域の天候条件などにより好不調まちまちの結果であった
- ・ ごちそうメニューは、概ね好調であった。すき焼き用牛肉や刺身が好調とのコメントが多く、特に高付加価値商品の動向が良い
- ・ おせち関連は、予約販売を伸ばした企業が多かった。一方で、おせち用単品惣菜や手作り用の材料は好不調が分かれた
- ・ 年越しそば需要においては、「生そば」や惣菜の「天ぷら（えび天・かき揚げ）」が順調に売上を伸ばした
- ・ お正月飾り関連の「鏡餅」や「しめ飾り」は不調であった。縮小傾向が続いている

以上